

NPO法人 窯どこ（土岐市）

中心市街地

産業・地域活性化

取組の背景

安価な海外製品の輸入増加やライフスタイルの変化など、世の中の大きな流れの中で地場製品の売り上げが減少し続けており、今後も見通しは厳しい。

このままでは、街が衰退し続けるという危機感があり、地域の活性化のために始めた。地域住民の意識にも、陶磁器の街という誇りや気持ちが失われつつある。

まず、駄知町の南部に所在する窯元10社程度で「窯やネット」というネットワークを立ち上げた。

「窯やネット」の活動に対する地域の理解をより促進し、地域の参加を呼び込んでいくために、飲食店やタウン誌関係者、温泉のオーナーなどにも参加してもらいNPO法人化した。

取組の概要

「どんぶり」や「すりばち」の産地として名高い産地、土岐市駄知町の窯元が集い「窯やネット」というネットワークを組織。さらに、地元飲食店なども参加したNPO法人「窯どこ」を立ち上げた。低迷する陶磁器産業のなかで、消費者ニーズに直結した直販による販路開拓を進めたり、産地に客を受け入れるための窯元めぐりを企画するなど、陶磁器産地のまちづくり活動を展開している。

取組の内容

- ・平成14年度、10社程度の窯元で「窯やネット」を設立。
- ・平成15年より、毎年「だち窯やまつり」を実施。
- ・平成15年より、毎年「東京ドーム どんぶり百撰」に出展。
- ・平成18年1月、NPO法人窯どこ設立。
- ・平成18年10月から19年9月にかけて、鉄とガラスの造形などで知られる篠原勝之氏を招いて、鉄とガラスと陶器とのコラボレーションによるモニュメントづくりに取り組む。焼き

物の文化性と魅力を再発見し、地域住民が目標を一つにしたモニュメントづくりを通じて、地域住民の交流と地域連携を深めることがねらい。

成果

- ・急に大きな成果が期待できる活動ではないが、NPO法人化などを通じて、活動に対する、あるいは陶磁器産業に対する地域の人々の関心が高まりつつあるのではないかと。
- ・お客さんが訪ねておもしろいと思うような街づくりをしよう、という気運が高まってきた。窯元側も、作るだけでなく売る、PRするといったことも重視するなど、意識に変化がはじめている。

成果の要因

- ・NPO法人化により、地域における認知度や信用度が高まった。
- ・陶磁器産業には長い歴史や文化がある。活動を通じて、地域の人々がこうした魅力や楽しさを広めていく大切さに気づいた。地域外の若者なども、そうした魅力に惹かれて訪れてくるようになった。

今後の課題

- ・当面は、イベントなどの活動を通じて街の人々の意識を高めていきたい。将来的には、空き工場や空き屋を利用し産業観光による地域の活性化に取り組みたい。
- ・陶芸を学ぶために訪れる陶芸家志望の若者に、空き工場、空き家の情報を提供し若者が定着できるような支援を行う。
- ・NPO活動を支えるメンバーはそれぞれ本業の合間に活動しており、マンパワーが不足している。地域の人々の理解を深め、人材確保に努めたい。
- ・どのように苦境を打開していくのか模索を続けていくことが大切。

行政への期待

- 地域の自発的な活動に対する財政支援に期待。行政丸抱えで支援することは不適當だが、やる気のある人々の自己負担を前提に支援。
- 活動に関わる情報提供も有益。例えば、県の補助を受けた事業に対して評価し、改善点などをアドバイスするなど。
- 大きな箱物に金をかけるよりも、地域ごとにきめ細かな予算の使い方が必要ではないか。地域のやる気のある人を活用すれば、自らのこととして真剣に取り組むのではないか。
- はつらつファンドのようなNPO支援の枠組みは大変ありがたい。

この人にお話をうかがいました！

NPO法人 窯どこ

理事 加藤賢治さん、若尾洋造さん

調査日：平成18年10月26日（木）

調査者：産業政策課 河田、東濃振興局 佐竹

